

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 大蔵 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和4年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における保健体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の2年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
本市	29.89	26.05	45.62	51.43	411.48	79.38	7.98	200.49	20.64	42.89

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42
本市	23.48	21.58	47.11	45.64	303.38	50.85	8.95	169.09	12.41	48.27

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

○「運動」「保健体育の授業」が「好き、やや好き」は男女とも100%である。また、体育の授業で自分の動きの質が向上していると実感している生徒の割合も高いので、そのことを日常的に運動する意欲につなげていくようにする。
 ○平日のインターネット等の平均視聴時間において、男女ともに「一日平均2時間以上視聴する」生徒の割合が高いため、放課後の生活習慣の見直しを行うことが運動習慣作りに有効である。
 ○運動部活動や運動クラブチームに所属していない生徒は、一週間において、体育の授業以外に男女ともほとんど運動していない状況を改善することが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で）

○男女とも、ハンドボール投げの記録が全国平均より低いので、球技において、ボールを投げる動作の確認や遠くへ飛ばすポイントなどを授業で伝え、反復していくようにする。
 ○毎時間の取組として、腕立て・腹筋・バービーを継続していき、引き続き、基礎体力の向上を図る。
 ○保健の授業で、生涯スポーツの意義について、主体的に考えるようにする。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

○総合的な学習の時間や特別活動の時間を活用して、生徒の主体的な活動を促すようにする。
 ○昼休みのグラウンドでの活動等、短時間でもスポーツに親しむ環境を整える。
 ○家庭で、日常的にストレッチや趣味程度の体を動かす時間を取るよう保護者へ啓発する。